

大阪都市魅力創造戦略 2025 概要

<本戦略の位置づけ>

新型コロナウイルス感染症の影響・状況を踏まえ、観光需要の回復を担う国内旅行の促進や新たな潮流に対応した魅力の創出・強化、インバウンド回復後を見据えた基盤整備などを着実に推進するとともに、大阪・関西万博の開催さらには開催後に向けて、国際都市大阪の新たな大阪の賑わいを創り出し、活力を高めていくための施策の方向性を示すものである。

◆計画期間◆ 2021（R3）～2025（R7）年度

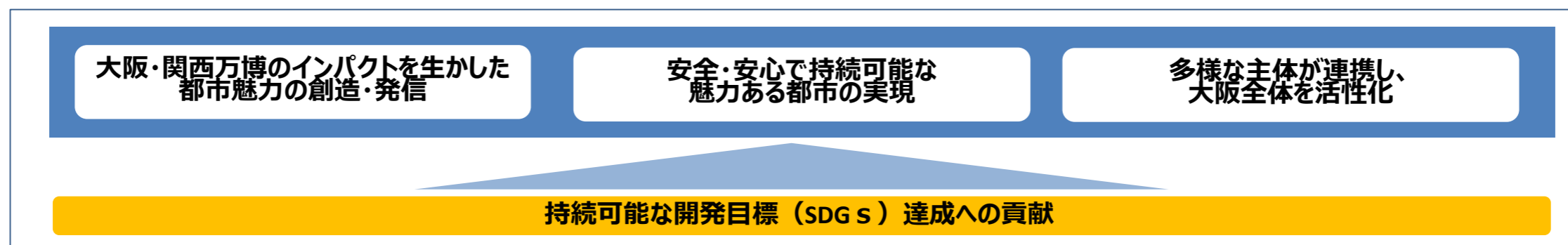
※ 新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、計画期間中においても必要に応じて柔軟に戦略を見直す。

めざす姿

魅力共創都市・大阪 ～新たな時代を切り拓き、さらに前へ～

難局の先にある新たな時代を切り拓くため、住民・企業をはじめ、あらゆるステークホルダーとともに、大阪が持つ豊かな歴史・文化や人々の多様な魅力、都市のポテンシャルを生かし、チャレンジし続けることにより、大阪を元気にし、府民・市民が誇りや愛着を感じることで、世界に誇る魅力あふれる都市を創り上げることをめざす

<基本的な考え方>



◆めざすべき都市像◆

10の都市像で施策展開

- 1 安全で安心して滞在できる24時間おもてなし都市
- 2 大阪ならではの賑わいを創出する都市
- 3 多様な楽しみ方ができる周遊・観光都市
- 4 世界水準のMICE都市
- 5 大阪が誇る文化力を活用した魅力あふれる都市
- 6 あらゆる人々が文化を享受できる都市
- 7 世界に誇れるスポーツ推進都市
- 8 健康と生きがいを創出するスポーツに親しめる都市
- 9 大阪の成長を担うグローバル人材が活躍する都市
- 10 出会いが新しい価値を生む多様性都市

<重点取り組み>

大阪・関西万博を見据えた魅力づくり、新型コロナウイルス感染症による影響、都市魅力創造に向けたこれまでの取り組みにより明らかになった課題への対応などの観点から、本戦略においては次の項目を重点的に取り組む。

世界第一級の文化・観光拠点の進化・発信

- ・大阪・関西万博を契機とした世界に向けた大阪の魅力発信
- ・水都大阪、百舌鳥・古市古墳群、万博記念公園、大阪市内重点エリア等の魅力強化
- ・IR誘致、大阪中之島美術館開館や大阪市立美術館リニューアル、うめきた2期まちづくりの着実な推進 など

大阪の強みを生かした魅力創出・発信

- ・食、歴史、文化芸術、エンタメなど大阪の強みを生かした魅力の磨き上げ・発信
- ・博物館や美術館の文化資源の鑑賞・体験など文化観光の推進
- ・プロスポーツチーム・トップアスリート等と連携した魅力発信 など

さらなる観光誘客に向けた取り組み

- ・AI、ICT等を活用した新たな観光コンテンツの開発・発信や受入環境整備
- ・国内観光の需要喚起、マイクロツーリズム・府域周遊の促進
- ・欧米豪をはじめ幅広い国・地域からの誘客、プロモーション展開
- ・ウェルネスや特別感・上質感ある体験などの多様なニーズへの対応 など

戦略的なMICE誘致の推進

- ・ガイドラインの順守を前提としたMICE開催支援
- ・WEB等を活用した新たな展示会等の支援
- ・ニューノーマルに対応した新たなMICE戦略の策定、官民一体の誘致 など

文化・芸術を通じた都市ブランドの形成

- ・文化芸術活動の回復や賑わい創出の取り組み
- ・文化芸術の担い手や支える人材の育成、鑑賞機会の創出 など

スポーツツーリズムの推進

- ・在阪スポーツチームとの連携等によるスポーツツーリズムの推進
- ・大規模スポーツイベントの開催 など

大阪の成長・発展につながる国内外の高度人材の活躍推進

- ・海外進学支援等によるグローバル人材育成、活躍促進
- ・外国人留学生の就職支援 など

<最優先取り組み>

新型コロナウイルス感染症により多大な影響を受けた大阪の賑わいを取り戻すため、まずは、下記について優先的に取り組む。

- ▶ 食、歴史、文化芸術、エンタメなど大阪の強みを生かした新しい時代に相応しい価値や魅力の創出
- ▶ マイクロツーリズムを起点とする国内からの誘客強化
- ▶ 来阪外国人の75%を占める東アジアからの旅行者をコロナ前の水準に戻すための施策展開

＜戦略の進捗管理＞

戦略に掲げるめざす姿の実現に向け、各種施策を着実に推進するとともに、本戦略の進捗を管理するため、大阪府市都市魅力戦略推進会議において年度ごとに評価・検証を行う。

内外からの誘客に関する数値目標

戦略の数値目標として、「内外からの誘客」に関し、「大阪の再生・成長に向けた新戦略（2020年12月）」と整合を図りつつ次のとおり設定する。なお、これらは、感染症の状況による変動要因が大きいいため、当面の間、新型コロナウイルス感染症発生前の水準（2019年実績）を上回ることを目標とする。

※ 先行きが見通しづらい状況を踏まえ社会経済情勢等の変化に応じて、目標値、達成をめざす時期等について、適宜、追加・修正を行うなど、必要に応じて柔軟に見直しを行っていく。

指標	目標値(2019年実績)	達成をめざす時期
日本人延べ宿泊者数〔大阪〕	2,950万人泊	2022年
来阪外国人旅行者数	1,152.5万人（※1）	入国規制解除から2年後（※2）

※1 「来阪外国人旅行者数」について、従来は「訪日外客数（JNTO）×訪問率（訪日外国人消費動向調査）」に基づき算出していたところ、2018年より、観光庁において全国値との整合性を有し地域間比較が可能な「訪日外国人消費動向調査（都道府県別集計）」が公表されたため、当該統計による把握を行う。

※2 入国規制措置が概ね解除され、国際的な人の往来について感染症拡大前の状況を取り戻した後2年を想定。具体の時期は改めて設定。